



都立桜町高等学校【グランドデザイン】

「地域に根ざした中堅校へ！」

令和7年4月15日版

【生徒／学校の現状】と【育成すべき資質・能力】

- 進路実現に向けて高い志・初志貫徹の強い信念を育む必要がある。**
入学当初、多くの生徒が高校卒業後4年制大学進学を希望しているが、志半ばで諦め、専門学校進学等へと方向転換する生徒が少なくない。
- 基本的生活習慣・家庭学習習慣を定着させる必要がある。**
規則正しい生活、家庭学習習慣が身に付いていない為、健康管理や基礎学力の定着に向けて、支援が必要な生徒が少なくない。
- 多くの人たちとの関わりを通して「自信・自己有用感」を育む必要がある。**
小・中学校時代の経験不足から、新たな課題に挑み解決していくことに「様子見」「及び腰」の生徒が少なくない。行事や総合的な学習の時間を通して、役割を担当させたり、実体験を積ませる指導が重要となる。

【予想される社会の変化】

- 教育改革が進み、「主体的で対話的な深い学び」が一層重視される。受動的・一方的で知識詰め込み型の「型にはまつた浅い学び」はAIに奪われる一方、**能動的・双方向で、個性と独創性を活かした深い学び、共感や感動を伴う学びはAIに奪われることはない。** 但し、情報関係の知識や道具は、今後「読み・書き・算盤」&文房具並になっていく。
- 健康意識の向上、医療・福祉の充実、健康日本2.1（第2次）により、2030年には3人に1人が65歳の高齢者になる一方、健康寿命の延伸も見込まれ「人生100年時代」が近づいてくる。**超高齢化の先陣を切る日本は、前人未踏の地に「お手本なく」チャレンジすることになる。** 併せて少子化、生産年齢人口の減少への対応も待っている。
- 自然環境の保全と回復**が、人類が存続するために待ったなしの時代が到来しつつある。先人からの学びと、技術革新で課題を解決していく必要がある。皆で取り組むための発進力も要求される。

「パラダイム」

（ある時代の支配的な物の考え方、認識の枠組み、規範）
の転換と

「不易流行」の両輪を重視した教育

- 活動の中で、学んだ知識を糧にして考え、前人未踏の原野にいるような感覚で、あらゆる可能性を模索しながら行動する。正に、自分で考え、対話し、人々と共に行動し、そこから学ぶという「**アクティブ・ラーニング**」で社会変化で生じた課題を解決していく。
- 「教える」という教員が主語の視点だけでなく「解った。」「できるようになった。」という**生徒を主語にした視点**への転換。
- **How to よりも To do へ**、物事をどのようにするかよりも、何をしたいのか？を大切にした生活指導と進路指導。生徒に単なる知識を伝達する学びのスタイルから、生徒自身が五感で感じて、考えて、時には相手を思いやり、行動すると言う学びのサイクルで、自ら育つ力を發揮することで学びを深めていく。
- 先人の知恵から学ぶ。**
例えば「人間関係の構築」「人が幸せになるためには（幸せを感じる自分になるためには）」などの悩み事は、古今東西の偉人や哲学者が既に答えを出していることが多い。
生徒が徒手空拳で一から考え直す禹を踏むより、先人の著書にその道標を求める習慣を身に付けることが大切。**読書**により新たな共通了解をみいだせたり、自信を持って新たな課題に取り組めるようになる。
貴重な時間も効率的に使える。**読書教育・自主学習の推進**

【校訓】

1. 「自主協調」…自主的に協調し、互いに協力すること。
2. 「質実勤勉」…康身が充実していて飾り気がなく、心身共に強く逞しいこと。
3. 「先取独創」…将来を予測し、積極的に挑戦すること。
4. 「敬愛礼讓」…礼を重んじ、人の立場を尊重し敬い愛すること。

【学校像／学校経営計画】

創立90周年を3年後に控え、歴史と伝統を踏まえて**令和7年度「海外学校間交流推進校」、「高等学校DX加速化推進事業対象校」**に応募し、国際視野を拓ける学習、ICT環境の充実に取り組むことで、大学進学支援体制の強化と、授業改革を加速し、都民の期待に応えると共に「部活動の活性化」を標榜する高校として文武両道を推進する。そして、地域からの信頼をより確かなものとし世田谷区において**希望の進路を実現する中堅高等学校**として本校を一層発展させる。

1. 基本的生活習慣を定着させ、学習に対して興味・関心を持ち、**主体的に学習する態度**を身に付けさせる学校
2. 計画的・組織的に進路指導を行い、生徒一人ひとりに**高い志**を持たせ、その進路希望の実現が図れる学校
3. 「**時を守り、場を清め、礼を正す。**」生徒を育成する学校
4. 「個性の尊重・価値観の多様化」と「わがまま」を見極めて指導することを基本理念とした、**自主性に名を借りた放任は許さない**学校
5. 新校舎完成、創立90周年に向けた様々な取組を通して、伝統を基盤としながら、**生徒自ら「学校を創る。」気概を育む**学校
6. 生徒、保護者、教職員、桜友会（同窓会）、地域の人々が**愛し、誇ることができる学校** アフリカのある国の格言、「子どもを育てるには村が一つ必要である。」に倣い、地域と連携し**「我らの子どもも桜町高生」感を共有する。**

【桜町高校が目指す教育実践】

○桜町のアクティブ・ラーニング

「**アクティブ・リスニング**」の奨励
ICT機器の有効活用は推進するが、「トーク＆チョーク」による授業も否定しない。要は、方法にとらわれるにではなく、生徒の頭と心（実技では身体も）が活発に活動し、時には揺さぶられる指導が桜町が目指す授業！

- 「知識を活用して考える問い」に導く授業
課題を論議するため必要な知識と理論を、事前に獲得しておくことが大切！◀ 基礎知識、理論・思考の蓄積が前提。
中身のない「表現力」では、言葉の遊び、議論の上滑りで終わる。
- 生徒の発言は「誤答であっても大切に扱いクラス全体の学びに活かしていく授業
生徒が安心して何度でも間違うことができる環境の保証・友達を認める豊かな心◀ チャレンジ精神が高まる失敗は成功の元
いじめ未然防止の基盤となる学習環境
- 授業展開で細かに時間を計測し、生徒に時間を意識させることで集中力を高めさせる授業
- 調べ学習の推進
図書司書と連携し、授業で推奨図書を紹介するなどして読解力育む。
生徒による授業の振り返り、自主学習に導く適切な課題・宿題の提供を継続する。

【学校教育全体を通して（教科横断的に）育成すべき資質・能力に基づくループリック】

育成すべき資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
表現力 プレゼンテーション力	発表に対する準備（調査・分析・学び）が不十分な状態で発表に臨んでおり、内容が伝えられない。暗記も十分ではなく、意欲も感じられない。自信なく、原稿をただ読み上げているだけの発表に留まっている。	準備を整えた上で発表に臨んでおり、学習内容や自分の考えを添えて伝えることができている。暗記したこと、学習したことを前に向いて発表している。目線が定まっており平常心を保ち発表している。原稿を読み上げる域はでていない。	綿密な準備（模式化した分かりやすい資料提示・PowerPoint等）の上で内容を自分たちのものとして発表に臨んでおり、友達と協力し合い聞く人を意識して惹き付ける表現方法で発表している。目線が定まり自信を持って発表している。
規範意識・傾聴力	興味・関心の幅が狭い。formalとprivateの区別がつかず、頭髪・服装等について我田引水の解釈でわがままを主張する。改善指導の継続がないと自己管理ができない。一人ひとりが都立桜町高校を代表しているという意識が薄い。	学習、学校行事、部活動等へ興味・関心が広がり、おしゃれ等への関心はあるものの、学校生活はformalな場であることを理解し、決められた規則やルールは守り、指示に従うことができる。「聞く」ことがコミュニケーションの基本であることを理解している。	母校愛があり校則の意義や、高校生に相応しいマナーや思いやりの心を理解して行動することができる。生徒会活動等を通して、学校のより良い規則やルールについて新たに提案することができる。
知識・技能	○全ての学習の基礎となる国語力の必要性を理解して、学習に向かおうとしている。○文理選択で共通で求められる英語力の基礎固めに取り組んでいる。○必要とする情報を収集し課題解決を試みている。○筋道を立てて物事を考え整理しようとしている。	○国語力を身に付け適切に使用できる。目標：漢検準2級合格○英語の授業の内容について地道に取り組み英語で日常生活程度のコミュニケーションはとれる。目標：英検準2級合格○情報を取捨選択し、また活用して物事の理解や考察を行うことができる。○筋道を立てて物事を考えることができる。	○言葉で考えを組み立て、根拠を示して丁寧に説明することができる。多くの作品に触れ豊かな心が育っている。○英語の作品や記事を読み、その内容について英語で意見交換や発表ができる。○情報を多面的に捉え、広く深く考察することができる。○論理的に物事を考えることができる。
思考力・判断力	課題のポイントは押さえることができる。共通点や差異点は読み取れるが、まとめ方が文字面などの表面的な分類になっている。必要か否かの情報の選別がでていないことがある。意見とその理由は言えるが、理論の飛躍や根拠が不十分なことがある。	課題の重要な内容や要点を捉えている。情報を分類する意図が明確で的確に整理することができる。自分の考えに基づき情報の取捨選択ができる。見る視点が多様化し新しい意見にも耳を傾けられるようになってきている。意見と理由に論理的飛躍がなく、根拠が明確である。	課題解決の為の情報整理が巧みである。自分の考えに沿って、内容の精査や理解までできている。更に自分なりの新しい意見・発想が生まれている。自分の考えを他者に対して説得力のある説明ができる。
学びに向かう力・人間性	学力向上に関心がない。静黙にしているが相手の話を聞いていない。誰かが解答を導き出すのを待っている。時折、私語がある。学習に向かう視点では友達への関心が薄い。学習時間が過ぎるのを待っている。	準備された課題には取り組む。相手の話を聞くことができる。依頼心を残しながらも学習に取り組む。「困っている友達」を認知しているが、どう励ましてアプローチしていくか分からぬ。自分の役割は地道に行う。	学力向上に向かう強い意志がある。相手の話を真摯に聞くことができる。自律して自分の学習課題に取り組む。「困っている友達」に手を差し伸べることができる。ゴールを意識してメンバーを導く努力をしている。困難なことがあっても、協調して課題解決に取り組むことができる。

【目指すべき生徒の将来像】

- 基礎学力・主体性・自己管理能力を活かして継続的に学び続けることができる生徒
- コミュニケーション能力を発揮して、他者と協働して主体的に社会に貢献することができる生徒
- 情報活用能力・分析力を活かして、自ら課題を見出し、その本質を見極めることができる生徒

